

令和5年度事業報告

社会福祉法人 翡翠会



社会福祉法人 翡翠会

法人の理念

「地域と共に生きる」

翡翠会行動指針

「3つの顧客、3つのLIFEの最大化」

3つの顧客

- ・利用者様…翡翠会のサービスを利用する方々
- ・地 域…大網白里市をはじめ山武郡市の地域住民
- ・職 員…翡翠会に勤務する職員

3つのLIFE

- ・生 命…健康管理
- ・生 活…日常生活
- ・人 生…生きがい

利用者様への基本姿勢

- ・利用者様の意向を尊重して、多様な福祉サービスが総合的に提供されるよう創意工夫すること。
- ・利用者様個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成すること。
- ・利用者様の能力に応じ、自立した生活を地域で営むことができるよう支援すること。

翡翠会職員行動規範

- ・「清潔感」と「礼儀正しさ」
- ・「スピード」は誠意のあらわれ
- ・「普通の感覚」を忘れない
- ・「エコ」～「お金」「もの」「人力」を大切に使う
- ・「能動性」～自ら気づき行動する勇氣
- ・「チームワーク」～自己任務遂行と多様性の尊重

事業報告

令和5年度法人目標

- ・選択と集中～地域に求められる事業に注力する
- ・ペーパーレス化の一層の推進
- ・災害対策の推進

次年度への考察

「選択と集中」の部分については、山武みどり学園松尾を廃止し、相談支援事業は居宅介護支援事業所かきつばたに一本化した。これにより、介護・障がい双方の相談をワンストップで受けられるようになった。放課後デイ・山武青い鳥の家については、苦戦が続いているものの、利用者も増加傾向にある。今年度山武青い鳥工房の指定更新があるが、共生型も含めて検討していきたい。

職員配置が年々厳しくなっている中、工夫しながら必要な時間帯に必要な人員を配置できるよう、応援・協力体制が整ってきた。ペーパーレス化・災害対策など、事業所毎の取り組みでは限界がある。事業所を超えた法人一丸となって課題解決していきたい。

○理事会

- ・令和5年6月5日 10:30～11:30（青松庭 白砂）
議 題：第1号議案 令和4年度事業報告案について
第2号議案 令和4年度会計決算案について
監事監査報告
第3号議案 定時評議員会の開催について
第4号議案 役員等賠償責任保険契約締結について
第5号議案 令和5年度補正予算案及び資金運用について
第6号議案 諸規定の改定について
報告第1号 理事長の専決業務報告について
- ・令和5年10月28日 11:00～12:00（中部コミュニティセンター）
議 題：第1号議案 ほほえみの里かきつばた非常用発電設備購入について（入札方法・選定基準・予定価格）
第2号議案 評議員選任候補者の決定について
第3号議案 評議員選任・解任委員会の開催について
第4号議案 諸規定の改正について
報告第1号 虐待通報の報告について
報告第2号 理事長の専決業務報告について
- ・令和5年3月30日 10:30～12:00（中部コミュニティセンター）

議 題：第 1 号議案	令和 5 年度補正予算（案）
第 2 号議案	令和 6 年度事業計画（案）
第 3 号議案	人事について
第 4 号議案	令和 6 年度会計予算（案）
第 5 号議案	短期入所事業所の利用料変更について
第 6 号議案	令和 6 年 4 月の職員昇給について
第 7 号議案	諸規定の改正について
第 8 号議案	山武みどり学園改修工事計画について
報告第 1 号	山武青い鳥工房外壁塗装業者の選定について
報告第 2 号	山武みどり学園廊下長尺シート張替工事について
報告第 3 号	山武みどり学園特定給食施設監査結果

○評議員会

・令和 5 年 6 月 20 日 10：30～11：30（青松庭 白砂）

議 題：第 1 号議案	令和 4 年度事業報告について(報告)
第 2 号議案	令和 4 年度会計決算案について 監事監査報告
第 3 号議案	諸規定の改定について
第 4 号議案～	
第 13 号議案	理事選任について
第 14 号議案～	
第 15 号議案	監事選任について

○職員構成（令和 6 年 4 月 1 日現在）

山武みどり学園

	正職員	非常勤職員	
次長（施設長）	1	0	社会福祉士
課長	2	0	サービス管理責任者・社会福祉士・介護福祉士
主任	3	0	介護福祉士・保育士
支援員	16	17	社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・保育士
事務員	1	0	
看護師	1	0	
栄養士	0	1	管理栄養士
調理員	2	8	
合計	26	26	

山武青い鳥工房・山武青い鳥の家

	正職員	非常勤職員	
課長(施設長)	1	0	サービス管理責任者
主任	1	0	サービス管理責任者・保育士
支援員	2	16	保育士・介護福祉士
事務員	1	2	
看護師	0	1	
調理員	3	5	
合計	8	24	

カサ・ロサーダ

	正職員	非常勤職員	
統括施設長	1	0	社会福祉士・介護支援専門員
課長(施設長)	1	0	介護福祉士
支援員	1	5	介護福祉士
合計	3	5	

翡翠の宿一休

	正職員	非常勤職員	
支援員	0	2	介護福祉士
合計	0	2	

すえひろ工房やまぶき

	正職員	非常勤職員	
主任(施設長)	1	0	社会福祉士・介護福祉士・保育士・精神保健福祉士・介護支援専門員・サービス管理責任者
支援員	2	6	保育士
看護師	0	1	
合計	3	7	

ことぶき庵一休

	正職員	非常勤職員	
支援員	0	3	介護福祉士
合計	0	3	

かきつばた

	正職員	非常勤職員	
管理者	1	0	介護福祉士
介護職	4	7	介護福祉士
看護師	1	1	保健師・正看護師

合計	6	8
----	---	---

ほほえみの里 かきつばた

	正職員	非常勤職員	
主任(施設長)	1	0	介護支援専門員・介護福祉士
介護職	4	13	介護福祉士
合計	5	13	

居宅介護支援事業所かきつばた

	正職員	非常勤職員	
管理者	1	0	主任介護支援専門員
介護支援専門員	1	0	社会福祉士・介護支援専門員
相談支援専門員	1	1	相談支援専門員
合計	3	1	

※正職員 54名 非常勤職員 89名 合計 143名

○法人事務局

本年度事業の重点項目

- ・相談支援事業所「山武みどり学園松尾」を廃止し、法人の相談支援事業所は居宅介護支援事業所かきつばたに一本化する。その他の事業についても、状況に応じて廃止・集約化も検討していく。
- ・今後も職員間の業務共有と連携は続けていく必要があり、法人事務局内でのジョブローテーションも視野に入れて業務遂行する。
- ・LINEWORKS に関しては情報発信・個別&グループでのやり取りだけでなく、面談や会議にも使えるので、メンター制度にも活用する。
- ・就職フェアへの積極的参加、オンライン説明会開催、事業所紹介を行う。SNSでの情報発信を継続する。
- ・メンター制度2年目となる本年はメンターのさらなるスキル向上のため、研修参加の機会を提供する。離職者を一人でも少なくするために、定期的な面談(1on1)の実施、ストレスチェックを活用したメンタルサポートも引き続き行う。
- ・人事考課として「チェック表」を使用してきたが、可能であれば「人事考課に関わるチーム」を発足させ、チェック項目等含めて見直しを行い、「する側」「される側」が納得できる「チェック表」の作成を目指す。人事考課によって組織の活性化を促し、法人の成長につなげていきたい。また「する側」への研修も行い、考課基準の統一化を図る。人事コンサルタントの利用も検討していく。
- ・定期的な人事異動を通じて、組織としては緊急時の支援体制確保ができること

同時に、本人のスキル&キャリアアップへつなげ、業務へのモチベーションアップを図り、各事業所間の人材交流にもつなげていきたい。

- ・利用者様が10代~80代と年代に幅があるため、それぞれのニーズに合った支援が求められると思われる。法人事務局として、それらに対応できる人材の確保に注力し、入居さまの安心安全な生活空間の確保に努めたい。

- ・2022年度から学生ボランティアの参加や山武みどり学園支援課協力のもと製品販売も併せて行っている。子ども食堂という名称ではあるが、利用される方々には高齢の方もいらっしゃるのので、老若男女向けの「地域食堂」としての役割を果たすべく開催していきたい。2022年度はパルシステム千葉様とコラボレーションできたので、次年度も継続・新規コラボレーション先の確保を目指し広報活動を行う。

次年度への考察

- ・法人デジタル化について 事務局、部会等からの発信伝達ツールとして、LWの活用がなされている。また、LWライセンス数を60から90へ増やし、必要に応じてパート職員へもID付与・活用している。12月賞与に関する「チェック表」提出もすべてLWを通じて実施できた。かきつばたを除いた事業所で「ケア記録アプリ」での記録業務統一が完成した。勤怠管理システムを打刻タイムカード方式から、タッチオンタイムとし、勤怠管理と給与システムの連携ができるようになった。勤怠申請も申請書方式を改め、タッチオンタイムを通じ行えるようになっている。

- ・子ども食堂について 第3回開催時よりコロナ禍でのドライブスルー形式を改め山武青い鳥工房内、つまり室内開催へ切り替えた。これにより来所者に山武青い鳥工房内部を公開し、なおかつ、山武みどり学園作業班製作の物品販売を大々的に行えるようになった。学生ボランティアも年間通して延べ人数24名。今後はこのボランティアから新卒採用者を輩出できるようにしていきたい。

- ・人事異動・退職者について 1年を通じて適材適所を目指した人事異動が実施された。新卒採用3名のうち、1名が入職10日で、1名が10月末での退職となった。4月退職者は別として10月退職者に関しては、メンターや所属事業所の主任・施設長はじめ人事担当でサポートを行ったが結果として退職に至ったことは非常に残念である。退職理由の一つとして、「担当利用者との関係性」が挙げられており、今後の課題として取り組む必要がある。

- ・人材育成・研修等について 有志による社会福祉法人菜の花会等への見学を実施。他法人の現状や取り組みを肌で感じる有意義な機会となった。今後も他法人見学は継続していく予定である。法人全体研修は集会形式で2回開催出来た。なお、研修欠席者の課題提出は原則LWを通じて行うこととしペーパーレス化につながられた。

○山武みどり学園

実施事業

- ・生活介護（定員 50 名）
- ・施設入所支援（定員 40 名）
- ・短期入所（定員 8 名）

利用者状況

【施設入所支援】

平均年齢：全体 47.8 歳（男性 47.0 歳 女性 49.3 歳）

最高齢：70 歳

最年少：32 歳

障害支援区分（平均 5.8）

区分	1	2	3	4	5	6	合計
男性	0	0	0	0	4	22	26
女性	0	0	0	1	3	10	14
合計	0	0	0	1	7	32	40

利用稼働率

施設入所支援 96.6%

生活介護 92.5%

短期入所 86.9%

年間行事報告

月	目的	内容
4 月	季節を感じる	桜見物&ドライブ（グループ外出）
5 月	季節を感じる	ゴールデンウィークレクリエーション
6 月	社会体験	選択食（ミーゴレン&ルンダン）
7 月	季節を感じる	七夕レクリエーション
8 月	施設行事	サマーフェスティバル
9 月	施設行事	秋祭々
10 月	施設行事	フライングディスク練習会
	季節を感じる	ハロウィン
11 月	施設行事	フライングディスク大会（園内）
12 月	施設行事	クリスマス会
1 月	季節を感じる	年末年始レクリエーション
2 月	社会体験	選択食（ドリア&とんこつラーメン）
	季節を感じる	節分
3 月	施設行事（中止）	グランドボール大会（感染症拡大により中止）

本年度事業の重点項目

- ・利用者様が安全に生活を送る事が出来るよう、環境の整備に努めるとともに行動障害のある方の支援を徹底し、怪我等の防止に努めていく。
- ・利用者様の安心・安全が向上するように権利擁護、虐待防止の徹底を行う。そのため、外部研修への参加や権利擁護委員会による園内研修で、権利擁護や虐待防止の理解を深める。
- ・今まで自粛していた店内での食事を再開し、利用者の気分転換を図るとともに、充実した生活を送る事が出来るようにする。また、行事や活動の見直しを行い、利用者様の楽しみを増やす。
- ・生活介護事業では、やりがいを感じてもらえるような日中活動の検討、提供を行い、新規顧客の獲得に努める。
- ・今後も、有効な ICT 技術を積極的に導入し、利用者様の安全、安心の向上とともに、職員の業務負担の軽減を図る。また、導入している眠りスキャン、ケア記録アプリを活用し利用者様の支援に生かす。
- ・施設内設備の経年劣化が見られるため、早期の修繕や改修をしていく。
- ・災害時には福祉避難所として地域の受け入れ、地域貢献ができるように備える。
- ・新入職員が入職するため、メンター制度を活用するとともに、事業所全体でサポートしていく。

次年度への考察

- ・虐待防止・権利擁護への知識向上のため、積極的に外部研修に参加し研修に参加した職員を講師として職場内研修を開催し、パート職員を含めた全職員が互いに学び合う機会を設けていきます。
- ・高齢となった利用者様へのサービスを充実させるため、他事業所と連携を行いニーズに合った支援を行っていきます。
- ・施設建物の痛みが目立つようになっているため、補修、修繕を適宜行う必要があります。
- ・近年は職場環境を改善する動きが活発となっており、人材確保において職場環境の整備は重要な事項となっている。職員が気持ちよく勤務に臨めるような環境を整え人材確保に務めていく。
- ・山武圏域で地域生活支援拠点事業が開始となるので、短期入所事業は需要が増すことが予想されているため、緊急時の受け入れに対応できるようにする。また、定期的に利用される短期入所利用者様の獲得も継続して行っていく。

○山武青い鳥工房

実施事業

- ・生活介護（定員30名）

利用者状況

平均年齢：全体 45.2 歳（男性 46.8 歳 女性 44.5 歳）

最高齢： 73 歳

最年少： 18 歳

障害支援区分（平均 4.9）

区分	1（無）	2	3	4	5	6	合計
男性	0	1	0	8	8	13	30
女性	0	0	2	4	6	7	19
合計	0	1	2	13	14	19	49

利用稼働率

生活介護 94.7%

年間行事報告

月	目的	内容
4月	レク	ドライブ
5月	レク	ドライブ
6月	レク	ドライブ
7月	施設行事	納涼祭
8月	レク	ドライブ
9月	レク	ドライブ
10月	レク	ドライブ
11月	レク	ドライブ
12月	施設行事	クリスマス会
1月	レク	初詣
2月	レク	節分
3月	レク	ドライブ

本年度事業の重点項目

- ・令和5年度は新型コロナウイルス感染症対策のガイドラインが色々と変わってくると思われるが、しっかりと感染症対策を行いつつも柔軟に利用を行える仕組み作りを行う。
- ・現在の生活介護事業の見直しを行い、営業日を増やす等、利用者様に選んで利用していただけるように事業展開を行う。
- ・利用者様のニーズが多様になって来ている為、活動メニューや受注作業について再検討を行う。

- ・ケア記録アプリを導入。有効に活用し業務の効率化、ペーパーレス化に取り組む。
- ・新規利用者様を確保するため、相談支援事業所・特別支援学校へ働きかける。
- ・特別支援学校の実習を終えた方々が、卒業後に利用につながるよう、学校や相談支援事業所との連携を図る。
- ・福祉系大学や専門学校からの実習生を積極的に受け入れ、法人への就職につながるよう働きかける。

次年度への考察

- ・新型コロナウイルス感染症対策のガイドラインが変更されたことで、今まで自粛していた外出を以前のように利用者様が楽しめる外出・活動メニューを考え、実行していく。
- ・現在の生活介護事業の見直しを行い、営業日を増やす、定員を変更する、営業時間など利用者様に選んでいただけるような事業展開を行う。
- ・利用者様のニーズが多様になって来ているため、入浴についても再検討する必要がある。
- ・新規利用者様を確保するため、みどり学園など他事業所の利用者様を受け入れるなど、関係事業所と連携を図る。

○山武青い鳥の家

実施事業

- ・放課後等デイサービス（定員10名）

利用者状況

平均年齢：全体 14.1 歳（男性 12.8 歳 女性 16 歳）

最高齢： 9 歳

最年少： 18 歳

個別サポート I 該当者

障害支援区分

区分	1	2	3	合計
男性	7	2	9	7
女性	5	1	6	5
合計	11	3	15	11

利用稼働率

放課後等デイサービス 42%

年間行事報告

月	目的	内容
4月	レク	誕生日会
5月	レク	誕生日会
6月	レク	誕生日会
7月	レク	納涼祭
8月	レク	買い物
9月	レク	ドライブ
10月	レク	誕生日会
11月	レク	誕生日会
12月	レク	クリスマス会
1月	レク	誕生日会
2月	レク	節分
3月	レク	誕生日会

本年度事業の重点項目

- ・令和5年度は新型コロナウイルス感染症対策のガイドラインが色々と変わってきてくれると思われるが、しっかりと感染症対策を行いつつも柔軟に利用を行える仕組み作りを行う。
- ・学校等関係機関との連携強化を行う。
- ・療育活動メニューを充実させる。
- ・ケア記録アプリを導入。有効に活用し業務の効率化、ペーパーレス化に取り組む。
- ・看護師を配置し、医療ニーズにも対応できるよう努める。
- ・子ども食堂の際に広報活動に努め、新規利用児の確保に努めるが、見込めない場合は事業の廃止も検討していく。

次年度への考察

・昨年度は、実習から放課後等デイサービスの利用につながった方や、卒業後に青い鳥工房を利用したい方と新規契約をするケースが見られた。放課後等デイサービス単体で考えるのではなく、将来を見据えた利用の仕方を、ご家族や相談支援事業所へ提案していく。また、近隣の放課後等デイサービス事業所の多くは、車椅子を使用している方の受け入れを積極的にはしていないため、事業所の特性を生かし、身体的な障がいをお持ちの方の受け入れを行っていく。

○カサ・□サーダ

実施事業

- ・共同生活援助（定員12名）

・短期入所（空床型）

利用者状況

平均年齢：全体 50.5 歳（男性 49.8 歳 女性 51.6 歳）

最高齢：75 歳

最年少：19 歳

障害支援区分（平均 4.3）

区分	1	2	3	4	5	6	合計
男性	0	0	2	2	2	0	6
女性	0	0	1	1	3	1	6
合計	0	0	3	3	5	1	12

利用稼働率

共同生活介護 72.5%

年間行事報告

月	目的	内容
4月		
5月		
6月		
7月	茂原七夕まつり	茂原七夕まつりに参加しお祭りを楽しむ
8月		
9月		
10月	ハロウィン	グループホーム内でのパーティー
11月		
12月	クリスマス会	グループホーム内でのパーティー
1月	お正月・初詣	新年のお祝いや書き初め、初詣の外出
2月		
3月		

本年度事業の重点項目

- ・バリアフリーの設備や、生活介護事業所・山武青い鳥工房が隣接している事を強みに、青い鳥と連携しつつ利用者様を獲得していく。
- ・かきつばたの相談支援専門員と協力し、翡翠会や近隣の利用者様から入居希望される方の獲得していく。
- ・2番館の開設と共にケア記録アプリを導入し、ペーパーレス化やスムーズな情報共有の手段として活用していく。

次年度への考察

- ・年度末の時点で満床に近い状態にあるが、入居が決まるまでの空室や帰宅時の空きについては新たに取得した空床型短期入所を活用し、体験での利用や定

期的な短い宿泊の利用を薦め、入居に空きができた際に速やかに働きかけができるよう体制を整える。

- ・地域生活支援拠点事業に登録される為、日中の青い鳥工房や相談支援かきつばたと連携し緊急時の方の受け入れ体制を整え、地域で困っている方々に貢献できるように努める。

- ・利用者様には長く利用を続けておられる方もおり、高齢化してきている。医療やご家族との連携に努め、日々の体調管理や通院時のサポートができるよう意識していく。

○翡翠の宿一休

実施事業

- ・短期入所（定員 6 名）

利用者状況

平均年齢：全体 47.9 歳（男性 47.9 歳 ※女性利用なし）

最高齢：62 歳

最年少：26 歳

障害支援区分（平均 5.1）

区分	1	2	3	4	5	6	合計
男性	0	0	0	2	3	3	8
女性	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	2	3	3	8

利用稼働率

短期入所 72.7%

年間行事報告

月	目的	内容
4月		
5月		
6月		
7月		
8月		
9月	焼肉パーティー	ホットプレートを活用し、焼肉を皆で召し上がる
10月		
11月		
12月		
1月		
2月		

3月

本年度事業の重点項目

- ・新規利用者の獲得
- ・複数のパート職員が夜勤業務に入っているため、情報共有、連携を図る。また、意見交換の場を設け、団結力を深める。
- ・定期的にイベントを開催し、利用者様の気分転換、安定を図る。
- ・障害者虐待防止法の理解を促し、利用者様、ご家族様も安心して利用できるようにする。
- ・新入職員に対しての研修を行っていく。
- ・法人内他事業所から移動してくる利用者様がいたので、他事業所との連携を図りながら支援していく。

次年度への考察

- ・本年度、一休での行事が1回しか開催出来なかった為、次年度は外食等、利用者様が楽しめるイベントを定期的に計画していく。
- ・地域生活拠点の開始される為、精神科の病院を退院される方やご家族様の高齢化により、GHの利用を視野に入れた方からの見学相談を行なっているが、送迎を希望される方が多く、現状は新規利用に結びついていない。今年度からは山武圏域で地域生活支援拠点事業が開始されるため、単独短期入所等はよりその存在感が増すことが予想されており、緊急的な受け入れにも対応できるよう準備を進めていく。

○すえひろ工房やまぶき

実施事業

- ・生活介護（定員20名）

利用者状況

平均年齢：全体 36歳（男性 40.5歳 女性 38歳）

最高齢：67歳

最年少：18歳

障害支援区分（平均4.5）

区分	1（無）	2	3	4	5	6	合計
男性	0	0	0	3	5	2	10
女性	0	1	1	9	2	2	15
合計	0	1	1	12	7	4	25

利用稼働率

生活介護 67.0%

年間行事報告

月	目的	内容
4月		
5月		
6月		
7月	社会参加	松尾高校居場所カフェ
8月	外出レク	海岸散歩
9月	社会参加	手をつなぐスポーツのつどい絵画展
10月	社会参加	ハロウィン
11月	社会参加	ひすいかい子ども食堂
12月	施設行事	クリスマス会
	社会参加	木下大サーカス
1月	社会参加	初詣
2月	施設レク	節分の豆まき
	外出レク	道の駅オライはすぬま
3月	社会参加	ひすいかい子ども食堂

本年度事業の重点項目

- ・事業所開設から5年が経ち、地域でも認知されるようになってきた為、これまでを振り返り、施設としての魅力を再確認・再発見できるようにしていく（作業活動・余暇支援等の充実や、ことぶき庵一休との連携など）。
- ・利用人数の増加を目標にしつつも、そのことで個々の利用者様の気持ちや変化が見落とされぬよう、能力や興味、年齢等に配慮しながら、作業活動や日常生活面で必要な支援を検討していく。
- ・稼働率を上げるとともに、コスト削減も意識し、運営面での安定を目指す。

次年度への考察

- ・働いて工賃を得ることが第一目標の利用者様、日中活動を穏やかに過ごしたい利用者様、できるだけ外出などを行いたい利用者様などニーズは多様化している。内職だけでなく創作活動も取り入れるなど活動をバランスよく行い、それぞれのニーズにこたえられるように支援メニューを構築していく。
- ・強度行動障害研修などの研修を受講し、職員のスキルアップを図ることで、いろいろなニーズに対応できる体制を構築する。
- ・ひすいかい子ども食堂では、ボランティア様などの協力により、やまぶきとして参加することが出来ている。今後も滞りなく開催できるようにきちんと準備していく。
- ・特別支援学校実習生の受け入れや地域行事への参加を通して地域に根差し、卒業後の進路として選択肢に入れていただけるように努力するとともに、地域

の利用者様に知っていただき、つながりを作ることで、安心して利用できるような体制を維持していく。

○ことぶき庵一休

実施事業

- ・短期入所（定員5名）

利用者状況

平均年齢：全体 38歳（男性一歳 女性38歳）

最高齢：55歳

最年少：23歳

障害支援区分（平均 4.0）

区分	1	2	3	4	5	6	合計
男性	0	0	0	0	0	0	0
女性	0	1	0	5	1	1	8
合計	0	1	0	5	1	1	8

利用稼働率

短期入所 18.7%

年間行事報告

※土日の稼働が出来ていなかったため、行事实施できず。

本年度事業の重点項目

- ・定期的に利用している方の受け入れを継続しつつ、新規利用者様の獲得にも努めていく。
- ・現在すえひろ工房やまぶきを利用している方にも、いざという時に安心して預けられる場所として認識してもらうため、利用の機会を提案していく。

次年度への考察

- ・山武圏域で地域生活支援拠点事業が開始されるのに伴い、短期入所事業所として緊急時の受け入れを円滑に行うことで、地域の支援拠点としての役割を果たしていく。
- ・平日の稼働はできているため、土日の稼働ができるように職員体制を整えていく。
- ・現在、利用されている方が継続利用できるように支援体制を整えていくとともに、新たに利用される方や利用ニーズがある方を積極的に受け入れていく。また、ご利用について不安を感じている方などに向けて宿泊会等も開催し、利用者様が楽しくご自分のお家同様にリラックスして過ごせるような機会を提供していく。
- ・利用者様の必要としていることにきちんとこたえられるように支援の計画を

12月	クリスマスを祝う、 他	クリスマス会・お誕生日会
1月	お正月気分にする、 他	新年会・お誕生日会
2月	季節を感じる、他	節分（豆まき／恵方巻喫食）・お誕生日会
3月	//	ひな祭・お誕生日会

本年度事業の重点項目

- ・介護保険では、居宅介護事業所かきつばた、ほほえみの里かきつばた、また、共生型サービスでは相談支援専門員と連携し、利用者の獲得や登録定員の保持に努める。
- ・昨年、事業所移転したが、新型コロナウイルスの影響で地域住民の方々との交流が出来なかった。ここにきて感染者数減少となっており、地域、近隣住民への交流を深める為、行事の企画や参加を呼び掛けていく。
- ・現在、利用定員 29 名を保つことが出来ている。また、包括、在宅支援センター、大網病院 SW からの相談が増えており、また、地域の方々からも相談・短期利用等で信頼を得てきている。更に相談、支援を行っていく。
- ・ご利用者の状態把握に努め、変化に応じて家族や他事業所と連携して本人にあったサービスを提供していく。
- ・職員全体で会議や研修に参加し互いに学び、日々の申し送りにて支援内容や利用者の状況を確認し、統一したサービスが提供できるよう努めていく。

次年度への考察

- ・感染症に留意しながら、地域・近隣住民への交流を深めるため、行事の企画や参加を呼び掛けていく。
- ・登録定員いっぱいの 29 名を保って来たが、入院から復帰出来ない方や入院後のADL低下（通所困難）により、春先から登録者が減少した。包括支援センター、大網病院SW、以前のご利用者様のご親戚からのご相談が増え始めて来たので、支援に努めてご縁に繋げていく。
- ・職員が集まり難い状況にあるので、外国人労働者の就労も視野に入れる。
- ・eラーニングの活用と積極的外部研修への参加で、全体的に職員のスキルを底上げする。
- ・皆さんで楽しめるレクリエーションを増やし、もっと通って楽しい施設にする。
- ・ペーパーレス化に努める。

○ほほえみの里かきつばた

実施事業

- ・地域密着型サービス認知症対応型共同生活介護事業所

定員 18名

利用者状況

平均年齢：全体 85.4 歳（男性 84.5 歳 女性 86.3 歳）

最高齢：102 歳

最年少：68 歳

介護度（平均 2.7）

	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	合計
	2	1	2	3	4	5	
男性	0	3	2	1	2	0	8
女性	0	1	2	2	4	0	9
合計	0	4	4	3	6	0	17

利用稼働率

共同生活介護

1階ユニット 94.3%

2階ユニット 97.5%

年間行事報告

月	目的	内容
4月	季節行事 気分転換	お花見弁当 お花見会 ドライブ(瀬又方面 鯉のぼり見学)
5月	収穫 誕生日お祝い	かぶ・ジャガイモ収穫・きゅうりの苗植え 誕生会
6月	気分転換 苗植え	紫陽花おやつ作り さつまいも・あさがお苗植え
7月	季節行事 誕生日お祝い 収穫	七夕祭り 誕生会 オクラ・ミニトマト収穫
8月	季節行事 誕生日お祝い	納涼会 誕生会
9月	季節行事 誕生日お祝い 収穫	敬老会 誕生会 スイカ・絹さや収穫
10月	誕生日お祝い 季節行事	誕生会 社会福祉協議会歩け歩け大会

11月	季節行事	芋煮会
	季節行事	郷土芸能保存会
	誕生日お祝い	誕生会
	予防接種	インフルエンザワクチン接種
12月	季節行事	クリスマス会
	誕生日お祝い	誕生会
1月	季節行事	初詣外出(橘樹神社)
	季節行事	元旦行事
	誕生日お祝い	誕生会
2月	季節行事	節分
3月	季節行事	ひな祭り弁当
	誕生日お祝い	誕生会
	気分転換	ドライブ(白子方面)

本年度事業の重点項目

- ・小多機・居宅かきつばたと連携を図り、短期入所の PR や利用を進め、速やかな入居へ結び付けていく。また、情報交換を行い、事業所間での人事交流や人員不足時のヘルプなど、助け合える関係性の構築を目指す。
- ・来年度から義務化される BCP 計画の完成。感染が起こった経験を生かした予防対策。継続した避難訓練の実施。自家発電設備の申請手続きを進め、感染症や災害に強い施設作りを進める。
- ・ICT の継続した利用。介護記録アプリ・請求アプリを導入、活用することで業務の効率化を更に進める。また医療との連携を進めていく。
- ・短期入所の認知度がまだ低いため地域の研修、会議に参加し、PR をしていく。
- ・入居者様が安心して生活して頂くよう、ユニット会議・職員会議・委員会等、積極的に開催することで情報の共有化を図る。また昨年度同様、全職員が医療、認知症状、感染症対策、身体拘束廃止の研修を e ラーニングを活用し、専門職としての意識とケアの向上を図る。

次年度への考察

- ・人事異動などで正職員の人数が減り、パート職員の割合が高く、パート夜勤専従者も現在六名となっている。管理者を中心に、正職員がパート職員の更なる意識向上を働きかけ、正職員不在時でも、不安や混乱が起こらずに、円滑に業務を行っていけるよう万全なサポート体制の構築に努めていく。
- ・マニュアルの見直しにより、新たに作成された業務マニュアルに全職員が従って業務を行い、徹底した無事故対策を実践していく。
- ・利用者様 2 名が退所となった。稼働率上昇を目指し、小多機、居宅と密な連携を絶やさず、ショート利用者の積極的な受け入れなども通し、入所に繋がる

支援を行っていく。

- ・災害に強い施設作り。自家発電設備の設置を行い、年 4 回の避難訓練を実施する。地域と連携して行う。また、夜勤専従者の避難訓練が出来ていない為、実施する。
- ・コロナも 5 類になった為、積極的にボランティアなどを受け入れ、地域に根付いた施設作りを行う。
- ・ICTの継続利用。パート職員でも介護アプリが苦手な方がいる為、根気よく教える。
- ・主任不在時でも対応できる職員の育成に力を入れる。
- ・会議の回数を増やし、利用者様にとってより良い施設作りを行う。

○居宅介護支援事業所かきつばた

実施事業

- ・居宅介護支援
- ・障害児者 特定相談支援

利用者状況

平均年齢：全体 歳（男性 82.5 歳 女性 92 歳）

最高齢： 99 歳

最年少： 69 歳

介護度

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	事業 対象者	合計
男性	3	3	5	2	3	2	0	0	18
女性	8	13	15	9	6	4	1	0	56
合計	11	16	20	11	9	6	1	0	74

利用稼働率

契約者数 74 名

取り扱い件数 74 名

その他

令和 5 年度 3 名の利用者様が施設入所、2 名がお亡くなりになった。稼働率はほぼ 100%で推移していたが令和 6 年度法改正で担当上限が 44 名となる為次年度は新規を受けられる状態となる

本年度事業の重点項目

- ・本法人の多様な福祉サービスを活用し障がい、介護、どのような状況の方の相談にも対応する姿勢を継続する。
- ・法人内の他の事業所との連携を深め、サービスの活用を推進し、利用者様の

生活の質の向上を常に考え支援を行う

- ・ 特定相談支援では利用者様のご家族様の高齢化もありご家族単位で支える視点を常に持ち支援を行う
- ・ 基幹センターとの連携を深め山武圏域の特定相談支援に出来る会議り対応していく。
- ・ 法人の相談支援事業事業所として法人理念である「地域とともに生きる」を実践していく。
- ・ 現在使用中の介護ソフト「カイポケ」情報連携システムの活用し、ペーパーレス化を推進する。
- ・ 研修への参加、資格取得で職員のレベルアップに努力する

次年度への考察

- ・ 山武郡市地域生活支援拠点 登録事業所として 介護者の死亡、急病等により緊急に短期入所等のサービスが必要が生じた時の相談支援を役所、基幹センターと連携し行う。連携の為に LINEWORKS への登録を行った。大網地域の高齢化率が高い現状を考え対応が必要な事例は増えていくと考えられる。法人内を見ても入所施設の入居者様の高齢化に伴い、介護施設等への移行が必要な方が増える可能性が高まっている。ご本人様にとってより良い生活場の提供の視点で法人内各事業所と連携しながら相談支援を行っていく。
- ・ 特定相談では家族支援の視点が益々重要になっており 相談支援専門員、介護支援専門員が情報共有し相談、協力しながらの支援が重要となる
- ・ 神速かつスムーズな情報共有の為に特定相談でも介護支援同様にソフトの導入、活用を行い障がい、介護問わず職員誰もが担当者不在でも利用者様、ご家族様からの相談を受けることが出来る協力体制を整えていく。
- ・ 人材の確保、勤務の継続の観点から子育てと仕事の両立、働きやすい職場作りを行いたい。

○感染症対策部会

事業の重点項目

- ・ 各事業所の BCP を厚生労働省の指示に従い更新する。
- ・ 緊急時の応援体制を構築するため、法人内の別事業所に体験に行き、緊急時に備える。
- ・ 新型コロナウイルスに備えるだけでなく、他の感染症にも備えるため、引き続き、研修を開催し啓発活動に努める。

次年度への考察

- ・ 定期的な BCP の見直し。情報をキャッチし更新していくと共に各事業の訓練状況など指示、提案を行っていただきブラッシュアップを行えるようにする。

- ・部会メンバーの刷新。新部会長を中心に定期的な会議の開催。全事業所職員へ向け、都度感染症への注意喚起を呼びかける。
- ・感染症啓発活動の推進。引き続き、インフルエンザ、新型コロナウイルスなどの感染症に備えるため、外部講師の招聘、E ラーニングなどの研修を開催し啓発活動に努める。
- ・情報共有の徹底。各事業の感染対策担当と連携し、全事業所に情報共有を行える体制作りを目指す。
- ・コロナ 5 類後のマスク着用の自己判断化。夏などの熱い時期には熱中症予防もかねて、マスク着用を義務ではなく、自己の判断に委ねるようアナウンスする。
- ・緊急時の応援体制の構築。入所施設への応援を想定。介護部門、障がい部門で助け合いを行えるよう先ずは法人内の別事業所に体験に行き、緊急時に備える事。助けに来た方にどのような仕事を任せるか検討し、想定をしていく。

○災害対策部会

事業の重点項目

- ・各事業所の BCP 等に変更があった場合は、速やかに点検し更新する。
- ・災害時の事業所間の連携方法、内容等を検討。連絡網の整備と電話等が繋がらない時の対応方法を検討する。
- ・大規模災害が起きた時の法人全体の動きをマニュアル化。
- ・検討内容を元に避難訓練の要綱を作成する。

次年度への考察

- ・送迎を行なっている事業についての送迎ルートの見直しというところで、今年度に入り、1月1日の能登半島での大規模な津波災害が発生したことを受け、翡翠会でも送迎を行なっている事業があるが、送迎車にハザードマップを完備したり、事業所ごとで海側を長い時間通らないような送迎ルートの見直しを行なっていく。
- ・送迎中に災害が発生した際の受け入れや、体制については早急に災害対策部会の方で整えていく。
- ・連絡訓練について、現在ラインワークスのアンケート機能を活用し、2 ヶ月に 1 度のペースで徐々に内容のレベルを上げて取り組んでいる。定期的を実施することで、質の向上にも繋がると思うので、引き続き実施していく。

○虐待防止部会

事業の重点項目

- ・年に 2 回、チェック表を用いて業務の振り返りを行う。

・虐待防止に関する外部研修に参加し、職員会議や内部研修において報告を行い、虐待に対する意識改革と虐待防止に取り組んでいる。

・風通しの良い職場環境作りにする。

次年度への考察

・年2回のセルフチェックだが、翡翠会独自の物を作成し、業務の振り返りの為行う。

・虐待の事例検討を行い、分析結果・再発防止策を考え、全職員に周知を図る。

・風通しの良い事業所作りのため、各事業所に定期的に訪問し、適切な支援ができるようにする。

○地域における公益的な取り組み

実施事業

・子ども食堂かきつばた（子ども食堂）

実施・参加状況

・年4回 開催 お弁当・食材配布形式で開催

（5月28日・11月26日・1月28日・3月24日）

・年間参加者 304名

・大網ロータリークラブ協賛による資金・食材の提供

事業の重点項目

・本会が開催する子ども食堂を「ひすいかい子ども食堂」と改名し、法人を上げてと取り組む。運営に際しては、大網ロータリークラブや大網白里市をはじめとする関係機関と連携し、地域のニーズに合わせた運営を行う。

次年度への考察

・名称を「ひすいかい子ども食堂」と変更したことで、法人全体で取り組むという意識が高まった。メインで行う青い鳥・やまぶき以外の事業所の職員も作業品の販売などで積極的に関わるようになった。

・パルシステムに続きちあきのいちご園等、地域の企業も協力してくれるようになった。地域活性化という観点からも、有意義な取り組みといえる。